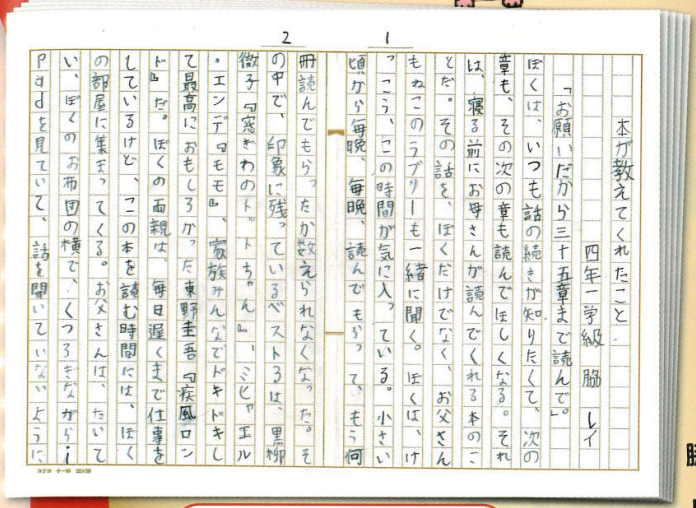
国語部門

〈総評〉 本年度は八七三作品の応募がありました。ここに紹介した受賞作品はどれも書き手の意見や想いがしっかりと述べられており、かつ、学年に相応しい内容の作品です。今後もこのような作品が多く出ることを期待します。

文部科学大臣奨励賞

本が教えてくれたこと

愛知県　愛知教育大学附属岡崎小学校　4年
脇　レイ



本が教えてくれたこと

四年一学級　脇　レイ

「お願いだから三十五章まで読んで。」

ぼくは、いつも話の続きが知りたくて、次の章も、その次の章も読んでほしくなる。それは、寝る前にお母さんが読んでくれる本のことだ。その話を、ぼくだけでなく、お父さんもねこのラブリーも一緒に聞く。ぼくは、けっこう、この時間が気に入っている。小さい頃から毎晩、毎晩、読んでもらって、もう何冊読んでもらったか数えられなくなった。その中で、印象に残っているベストろは、黒柳徹子窓ぎわのトットちゃん」、「ミヒャエル・エンデのモモ」、「家族みんなでドキドキして最高におもしろかった東野圭吾の疾風ロンド」だ。ぼくの両親は、毎日遅くまで仕事をしているけど、この本を読む時間には、ぼくの部屋に集まってくる。お父さんは、たいてい、ぼくのお布団の横で、くつろぎながらiPadを見ていて、話を聞いていないように

本を読むことで知った、人と共感することの楽しさや自分の「心の中にある静かな部屋（もう一つの大切な自分の世界）」の素晴らしさについて綴った作文です。本を読むことの意味や素晴らしさを、小学4年生とは思えないほどレベルの高い文章でまとめています。

子どもの文化・教育研究所理事長賞

合気道を続けて

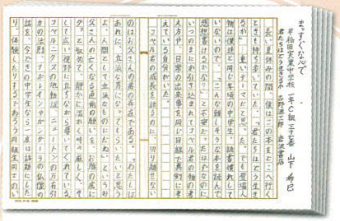
アメリカ　サンフランシスコ日本語補習校　中学3年
町山　見嶺

小学生のころから続けている合気道への思いを綴った作文です。合気道の思想に共感し、先生を手助けしたいと考える姿からは、見嶺さんが合気道をとおして人間として成長していく様子がうかがえ、読み手の心に強く響きます。内容・表現力・文章構成すべてにおいて優れた作品です。

中央出版株式会社社長賞

まっすぐな心で

東京都　早稲田実業学校中等部　1年
山下　希巳



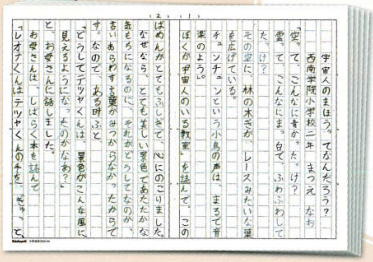
登場人物の行動やメッセージに思いを馳せ、今の自分を反省し理想の自分になりたいと考える希巳さんの姿に、素直で「まっすぐな心」を感じます。

（『君たちはどう生きるか』吉野源三郎著、岩波書店1982年）

一般社団法人日本児童文芸家協会理事長賞

宇宙人のまほうってなんだろう？

福岡県　西南学院小学校　2年
松栄　那直



小学2年生らしい素直な言葉で綴られており、主人公テツヤくんの気持ちをお母さんと想像しあう場面には、思わず微笑ましい気持ちになります。

（『宇宙人のいる教室』さとうまきこ著、金の星社1984年）

優秀賞

思いやりの心

大阪府　和泉市立光明台南小学校　4年
望月　祥貴

夏休みは休みたい

静岡県　牧之原市立相良小学校　6年
城居　智紗

『カモメのジョナサン』を読んで

マレーシア
テンビーインターナショナルスクールミリ　中学1年
小菅　勇太郎

礼夢くんへの手紙

兵庫県　兵庫県立姫路聴覚特別支援学校中学部　3年
三木　悠河